中小企業政策審議会第５回金融小委員会議事概要

日時：令和４年６月６日（月）１０：００－１２：００
場所：オンライン
出席委員：家森委員（委員長）、大槻委員、河原委員、北村委員、小林委員、嶋津委員、瀧澤委員、
　　長谷川委員、東委員、古川委員

議題
・中小企業政策審議会　金融小委員会　中間とりまとめ（案）について
・意見交換

議事概要
■ 事務局から資料２（神崎金融課長及び日原財務課長）を説明。
■ その後、自由討議。主な発言は以下のとおり（委員等の了解をとったものではありません）。

＜ポストコロナ・ウィズコロナの間接金融のあり方について＞
- とりまとめは、非常に包括的で、有意義。今後の効果検証では、支援を受けなかった企業の経営者・従業員がどうなったかも捉えるべき。倒産した例は多いだろうが、従業員らが能力を活かせるところにシフトしたならマクロでプラスの可能性。アメリカではコロナで労働力の大移動が起きており、生産性格差が広がらないかという問題意識。（大槻）
- 経営者保証は海外にもあるが、日本の方が労働流動性は低いため、事業に失敗したら当面は新しい事業を起こせず、雇用もされないとリスクが高い。これでは大きなイノベーションは起こせず、事業成長に基づいた新たな融資・保証制度を考えていくべき。（大槻）
- 活性化パッケージの実効加速のための実務指針は大変興味深く、経営力再構築伴走支援推進協議会も立ち上がり、これからは稼げる支援が重要。経営者は自ら考え、納得したことしか動かない。対話を通して共感をうみ、地道にやっていく必要。実務指針が中心的な指針となることを期待。（河原）
- SN4 号の半年ごとのモニタリングも IT 化を早急に進めて効率化を。金融 WG でもやっていたような定期的な信用補完制度のフォローアップを持続的にお願いしたい。（河原）
- 全体として網羅、深掘りしていただいたと感じる。その上で、収益力改善の実務や着眼点を整理した実務指針は大変重要で、内容は大変興味深い。また、同じパートに先日公表した事業再生 GL の言及があってもいいと思う。（小林）
- 経営者保証が招く弊害は大きく、経保に依存しない融資慣行確立のための施策に異論はない。起業意欲のある人を支援するためにも重要。また、解除に向けた取組は重要だが、金融機関アンケートだと経営規律の必要との声も大きく、ガバナンスの確立も避けては通れない。中小企業なりのガバナンスをどういう形で維持していくか、秋の議論に向け、勉強したい。（小林）
- はじめにと２章の１、「金融支援に一定の効果」とあるが、どういう視点からなのか、評価の視点があった方がよい。３ページに「政府系金融機関の果たした役割は大きかった」のはリーマン時かと思うが、それもこれから評価される今回のコロナ禍とは区別する必要があるように思う。また、１では「中小企業全体としては財務状況・返済能力が大きく悪化している状況にはない」のに、２で増大する債務に対応する必要性がある、という点も対象など、つながりをも

う少し工夫してほしい。成長志向の企業を支援するため、金融機関の目利きも重要という議論もあったかと思うが、そういうのもあってもいいのではないか。（滝澤）

- 今回のスタートアップの経保解除の推進はかなり踏み込んでおり、メッセージ性が強いので、制度が創設されたら広く周知すべき。一方、法人資産の私的流出・不透明な取引がないなどのガバナンス・経営規律については、横断的なテーマになるが、今後も取り組んでいくべき。ガバナンス推進のため、経保解除以外にも、補助金や税制優遇のようなインセンティブと絡めてもいいのではないか。また、解除後にガバナンスが守られなかった場合のペナルティも必要。チェックシートの話もあったが、フィードバックにあたり、全体で共通の様式があることが理想。今後、既に大企業では利用できるような金融技術が中小企業にも広がっていくだろうが、それを利用するにもガバナンスは重要。（東）
- これまでの議論を網羅的、深掘りしてまとめていただき感謝。経保を外せるかもしれないという広報の件は大変感謝。日本公庫の経営者保証を徴求しない定量基準の公開は画期的。難しい面もあるかもしれないが、民間金融機関においても、３要件を具体化し、何がだめだから徴求すると具体的に説明してほしい。例えば、適時適切な情報開示とあるが、電子化を踏まえ、毎月の試算表を提出することで評価するなどもいいのではないか。こういう流れだと民間金融機関が創業融資から手を引くのではないかという意見を個人的にもらったが、そうではなく、取らないことを前提に何ができるかを考えてほしい。（古川）
- 多くの議論があったが、とりまとめていただき感謝。事業再生ガイドラインの一層の活用促進にも言及いただくと、さらによい。事業者視点では、安心してチャレンジできれば、より創造的なことに取り組む意欲がわき、マクロの持続的な成長につながる。新しい資本主義実現会議の実行計画案でも出た、借入に際して経保がないことが普通になる、成長資金のためにはエクイティもある、そのためのガバナンスに向けた議論を深めていただきたい。（日商）
- 政策実施機関として、事業者の資金繰り支援のためにいろいろ実施してきたが、本日の議論でご指摘あった点も含め、関係者と連携して進めていきたい。（日本公庫）
- 高度化融資について触れていただき感謝。好事例を踏まえ、我々も周知していきたい。また、本日提出された参考資料も一体となった中間とりまとめにしていただきたい。（全中）
- 今回のとりまとめの多くは、法令によらずに早急に対応出来る一方、関係者が自発的にやってもらう必要もあるので、関係機関としっかり調整いただき、進めていただきたい。（家森）

＜中小企業の成長を支える新たな資金調達のあり方＞

- エクイティ・ファイナンスの活用に向けて、今回様々な施策が議論されたが、経営者にとっては分かりづらくなりかねないので、一元的な相談窓口の創設に賛成。（大槻委員）
- ガバナンス構築のため、専門家の伴走支援が重要。また、社外役員の導入の有用性に関する図表があったが、中小企業の実態を踏まえると、社外役員の導入が中小企業のガバナンスの構築・強化に資するかは不透明であるため、中小企業が多い日本ならではの中小企業にけるガバナンスのあり方を検討する必要がある。（大槻委員）
- 中小 M&A のここ数年の発展や、昨年 11 月に「中小企業者のためのエクイティ・ファイナンスの基礎情報」が公表されたことも踏まえると、次はエクイティ・ファイナンスというのは当然の流れ。（河原委員）

- 中小企業において、エクイティ・ファイナンスはまだまだ認知度が低く、手引きを作成しても普及が進まない可能性もあるため、様々な関係者を巻き込むことが重要。手引きについては、文字の大きさや文量、色などにも配慮して、分かりやすく伝えることができるようにすることが望ましい。（河原委員）
- ガバナンスについては、これまで経営者保証解除に向けた取組の中で議論してきたが、今後は、様々なステージの中小企業が取り組む際に、実務で参考になるような議論を進めていく必要がある。（河原委員）
- 中小企業が成長することは稀であることを認識した上で、成長を後押しするための支援を考えることが重要であり、その一つの方法がエクイティ・ファイナンスの活用である。（北村委員）
- 中小企業と投資家との接点を構築する手前の段階として、経営者の学習機会の確保が重要。エクイティ・ファイナンスの活用に当たっては、長期的な事業計画の策定や同業他社や業界の調査・分析が必要となるため、経営に関する広範な知識を体系的に学ぶ場が必要。（北村委員）
- 中小企業のガバナンスは、上場企業向けのものとは異なる。中小企業ならではのガバナンスのあり方を検討する際には、ガバナンスを構築・強化する目的から検討して、そのために求められるガバナンスの内容を検討することは正しい方向。（小林委員）
- 地域の中小企業を応援しようとする主体として地域金融機関を巻き込むことは、中小企業におけるエクイティ・ファイナンスの活用のすそ野を広げることにつながるため重要。金融庁とも連携して、地域金融機関が中小企業向け投資により積極的に取り組めるようにして欲しい。（小林委員）
- 中小企業側や地域金融機関側の人材育成に加えて、人材の流動化が重要であり、例えば、中小企業の経営者が投資家になる、中小企業に投資をした投資家が投資先の経営に携わる、デット・ファイナンスが主軸の人がエクイティ・ファイナンスに取り組み経営にも携わるなど、人材のキャリアが転換していくような仕組みを構築する必要があるのではないか。（嶋津委員）
- 中小企業のグループ化について、どのような個人や企業が軸となり、グループ化を進めていくかが重要であり、軸となる個人や企業の見極めについても支援が必要ではないか。（嶋津委員）
- 企業の所有と経営の一致については、中小企業ではなくファミリー企業という概念で議論されることが世界的にも一般的であるため、ファミリー企業という記載を追記してはどうか。（長谷川先生）
- サーチファンドは日本では馴染みが薄いため、概念を定義しておいた方良いのではないか。その上で、概念の整理、国内外の活用事例の分析なども必要である旨を追記する必要があるのではないか。（長谷川先生）
- エクイティ・ファイナンス活用に向けた支援ができる人材は希少であるから、各地域でそうした人材を手配することができない場合には、全国各地の経営者がオンライン上で事業計画策定等の支援を受けられるような仕組みの構築が必要。（東委員）
- 後継者支援ネットワークについて、オンライン及び対面双方で支援を受けることができる仕組みとした上で、そうしたネットワークへの導線を構築すべく、ピッチイベントなどを活用する必要がある。（東委員）
- エクイティ・ファイナンスの活用として、株式投資型クラウド・ファンディングが中小企業にとっては一番身近で取り組みやすいのではないか。プレゼンの仕方も含めて、事業計画の壁打

ちなどを経験できるため、株式投資型クラウド・ファンディングはエクイティ・ファイナンスの普及の第一歩として重要。（古川委員）

以上